

授業力を高める校内研修の進め方

－「みんなで取り組み、学び合う授業研究」を通して－

授業力やチームワークの向上を目指しましょう！



本研究では、授業についての課題を組織的に解決するために、授業研究を上図のように、「授業に関する事前の検討から、授業検討会、よさや改善策を授業実践に生かすための一連の過程」と捉えます。

1

「みんなで取り組み学び合う授業研究」のための研修手法(具体例)

授業に関する事前の検討のために、模擬授業をやってみましょう！

授業者の意図の共有

↓

模擬授業の実施

↓

改善策の検討

↓

授業の実施

◇ 教師が児童生徒役をする模擬授業の実施により…

- 全員が自分のこととして授業に取り組めます。
- 授業の具体的なイメージをもつことができます。
- 一人一人が自分の考えをもつことができます。
- 課題を発見したり、改善のアイデアを出し合ったりすることができます。
- 学年等で教材研究を深めることができます。

1 単位時間の全てを行うのではなく、導入の過程だけの実施や、発問などの指導の手立ての部分的な実施も考えられます。

「授業参観ミニカード」を活用して、焦点化された視点で授業参観しましょう！

多くの視点について評価しようとすると、焦点が定まらず、具体的な改善に結び付かない場合があります。

そこで、視点例等^{*}を参考に、2～3の視点に絞り、ミニカードに転記して焦点化を図ります。

【授業参観ミニカード (例)】

授業参観ミニカード			記入者 [OO OO]	
日時	○月○日(○)○校時	教科等	理科	学級
教材・単元 「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」			授業者	2年1組
参観の視点 (※3は、必要に応じて授業者設定)			授業者	○○教諭
1	本時のねらいをきちんと板書している。			④ 3 2 1
意見・助言等				
2	既習事項を活用して考えさせるなど、思考を深める発問をしている。			4 ③ 2 1
意見・助言等				
3			4 3 2 1
意見・助言等				
【一言感想等】 ノートに書けているのに、挙手できない生徒がいました。そんな生徒には、どのような指導をしたらよいか、共に考えてみたいですね。				

📀 **視点例については、CDにデータが入っています。御活用ください。**

「授業改善ミニカード」を活用して、よさや改善策の共有を図りましょう！

【授業改善ミニカード (例)】

授業改善ミニカード

年 月 日

氏名 ()

【授業や授業検討会を通して学んだこと】

↓

【具体的な実践事項】

授業や授業検討会を通して学んだことや気付いたことなどを記入します。

全体での今後の共通実践事項や、自分自身の改善策を具体的に記入します。

「いつ、何を、どのように実践する」のように、具体的な改善策であるほど、授業改善の状況や児童生徒の変容等を確実に把握できます。

2

ワークショップ型授業検討会の実際例（45分の場合）

進め方の説明

(3分)

● **ねらい、流れ、時間設定等の進め方を説明します。**

- 効率的な話し合いになるよう、あらかじめ検討の視点を絞り込んでおき、その視点に沿って検討していくことを確認します。
- 進行を円滑にするために事前に進行表を配布し、検討会の進め方について共通理解を図っておきます。

授業意図等の説明

(2分)

● **授業者が授業の意図等を説明します。**

- 授業者の思いや意見をもらいたい点等について説明します。
- 説明を聞きながら、気付いたことを付箋紙にメモしていきます。

グループ検討

(20分)

● **グループで授業を分析し、課題解決を図ります。**

- 1 一人ずつ、書いた内容を簡潔に紹介しながら、ワークシートに付箋紙を貼ります。
- 2 よかった点、改善点等の内容別に付箋紙を仲間分けします。
- 3 仲間分けしたものについて話し合います。
- 4 課題についての具体的な改善策を話し合います。

- 一人一人の発言の機会を確保するために、グループの人数は4人程度が適切です。
- 授業者は、適宜各グループの話し合いに参加し、質問等に答えるようにします。
- 2では、仲間分けすることを焦る必要はありません。その話し合いをすること自体が大切なことです。
- 3では、付箋紙の多いものに論点を絞ると、話し合いが活性化します。(少数意見を大切にすることにも留意します。)

グループ発表

(10分)

● **代表者がグループで話し合ったことや授業の改善策について発表します。**

- 成果や改善策について、重複する内容は割愛するなどして簡潔に発表します。

改善策等の共有化

(5分)

● **グループ発表で出された改善策について検討したり、今後の実践事項を策定したりします。**

- 検討会で取り上げることができなかった課題については、いつ、どのような方法で検討していくかなどを明確にしておきます。

指導助言

(5分)

● **外部講師や管理職からの指導助言を受けます。**

【ワークシート例】

【時系列シート】

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入
展開
終末

【マトリクスシート】

	視点1	視点2	視点3
成果
課題
解決策

【四象限シート】

	よかったところ	安全への配慮
生徒
教師

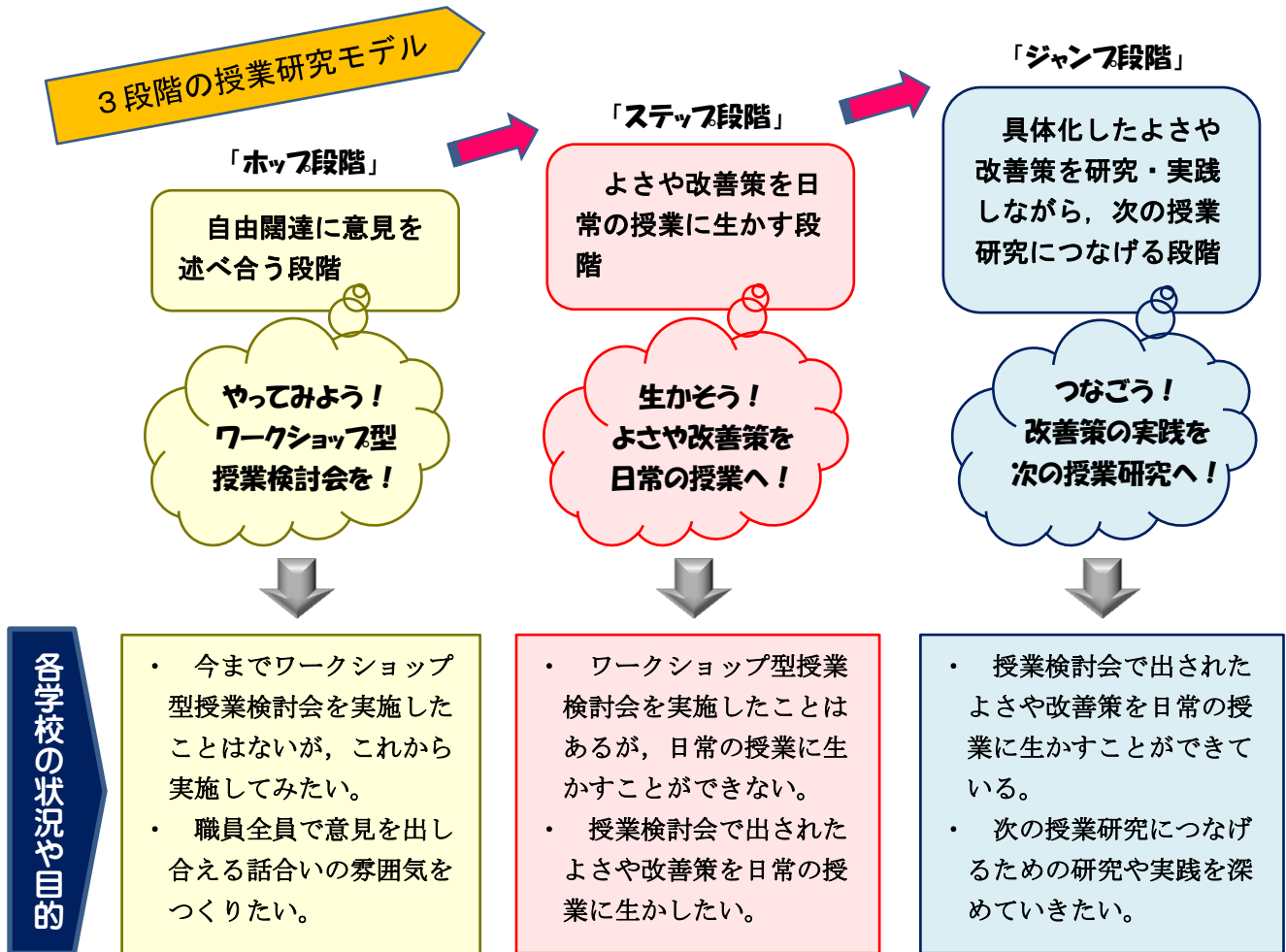
改善点

視点は、各学校における研究テーマに沿ったものを設定します。

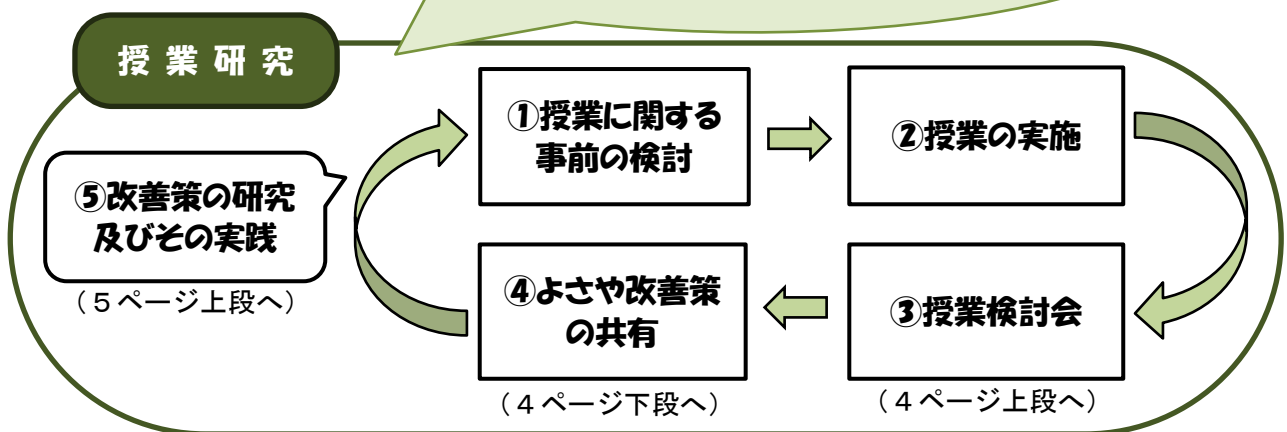
3

段階的に高める授業研究モデル

本研究では、1 ページで示したような一連の授業研究のサイクルが理想ですが、各学校の実態に合わせて、授業研究を段階的に高めていけるように、3 段階の授業研究モデルを提案します。



こちらの図では、
「ホップ段階…①②③、 ステップ段階…①②③④、
ジャンプ段階…①②③④⑤の積み重ね」
というイメージです。



各段階での工夫例を4～5 ページで紹介しています。参考にしてください。

4

各段階の進め方の工夫

ホッフ段階

まずは、自由闊達に意見を述べ合う雰囲気づくりを目的とします。そのため、ワークショップ型授業検討会の中でグループ発表まで行った後、すぐに指導助言の時間に移っても構いません。

1 授業参観

授業を参観しながら、参観の視点に基づいて気付いたことを付箋紙に記入します。小さな気付きも大切にして、付箋紙1枚に一つの事柄を簡潔に記入します。

<付箋紙への記入例> (マトリクスシートを活用した場合)

黄色の付箋紙(よかった点, 学んだ点等)	・～によって, …できていた。	・～の発問が思考を促した。
ピンクの付箋紙(課題等)	・～について課題が見られた。	・～では活動が停滞していた。
緑色の付箋紙(改善点等)	・更に～すればよいのでは?	・～の発問は…の方がよかった。

2 グループでの検討 グループごとに付箋紙をワークシートに貼りながら意見を出し合います。

3 グループ発表 グループで話し合ったことや、授業の改善点等について発表します。



【グループでの検討の様子】



【グループ発表の様子】

4 指導助言 外部講師や管理職から指導助言を受けます。

ステップ段階

ワークショップ型授業検討会でのグループ発表にて、全体でよさを明確にした後、授業の改善策を検討し、共通理解を図ります。

【改善策の焦点化の場面例】

ワークシート等を並べて掲示し、改善策の共通点に気付くことにより、改善策の焦点化を図ります(写真1)。また、共通した改善策がない場合は、ファシリテーターが、「本校で、すぐに取り組める改善策は？」などの焦点化する視点を掲示し、改善策の焦点化を図ります(写真2)。



【写真1】



【写真2】

【改善策の具体化の場面例】

「授業改善ミニカード(1ページ参照)」にそれぞれが記入したり(写真3)、再度グループで話し合ったり(写真4)して、改善策の具体化を図ります。



【写真3】



【写真4】

ジャンプ段階

次の授業研究につなげるための研究や実践を深めるための工夫をしていきます。

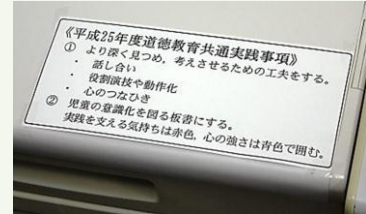
【実践校による具体的な取組】

・ チームを中心としたみんなで取り組む授業づくり

チームを編成して、チームリーダーを中心に学習指導案の作成や模擬授業を実施します。授業づくりが授業者任せにならずに、複数の教職員が協力して授業づくりに取り組むことができます。

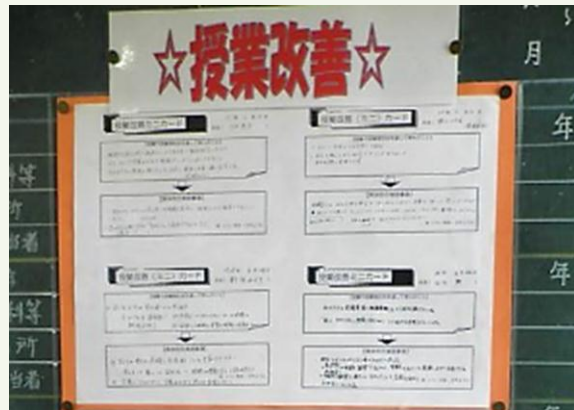
・ 共通実践事項の継続的な実践

授業検討会で明らかになった改善策を共通実践事項として位置付けて、日常の授業に生かします。また、共通実践事項に対する意識が継続されるよう、職員室に掲示したり、教室の教師用机に貼付できるカードを作成したりします（右写真参照）。さらに、教具等も作成して、共有できるようにします。



・ 改善策等の共通実践を図る工夫例

よさや具体化した改善策を職員室等に掲示したり（右写真参照）、校内研修や学年会、部会等で話題にしたりすることによって、実践による児童生徒の変容を話題にして、確認しながら進めます。



実践校の声

【ホップ段階】

- ・ 授業提供者の負担感が軽減され、様々な考え方を知ることができ、今後の授業の参考になった。
- ・ 授業者や参観者に対して、遠慮せずに意見を言いやすい方法だと感じた。

【ステップ段階】

- ・ 授業研究の視点が示されていたので、授業参観しやすく、ポイントを押さえた話し合いができた。
- ・ 授業検討会で共通理解できた改善策を、日常の授業に生かすことができるようになった。

【ジャンプ段階】

- ・ チームで授業づくりを行うことで、チームによる独自性や主体性が生まれ、教職員が積極的に、研修に関わるようになった。
- ・ 授業や授業検討会を通して学んだことから今後実践していきたいことをカードに記入し、それを研修係が集約・掲示し、全員で確認しながら実践・報告することで、研究授業を通して得たことを、次回に生かせるようになってきた。
- ・ 授業参観ミニカードの活用や模擬授業の実施によって、授業研究における成果と課題が明確になり、日々の授業を改善するための継続的な視点をもてるようになった。

5

ファシリテーターの役割

ワークショップ型授業検討会を充実させるためには、ファシリテーターの役割が大きいと言えます。ファシリテーターは単なる会の進行や司会の役割を担うだけでなく、どんな立場の人でも遠慮なく意見を出し合い、尊重されるようなルールを示すことで多様な意見を引き出し、意見を整理しながらまとめる促進役です。実践校でファシリテーターを担当された先生方が「改善策の焦点化」や「会の進め方」について工夫したことを参考にして、進行マニュアル例を作成しましたので、参考にしてください。

< 進行マニュアル例（45分の場合） >



CDに具体的な進め方の動画が入っています。

役割	時間	進め方（※ 工夫）	具体的な働き掛け（例）
場づくり ↓ 手順と時間配分等の説明	3分	1 遠慮なく話し合いに参加できる雰囲気を作ります。 ・ 笑顔で進行し、メンバーの話には反応しながら聴きます。（うなずき） ※ 簡単なゲームなどを取り入れると、場の雰囲気が和みます。	「これから授業検討会を始めます。まず、『今日楽しかったこと』について一人1分で話していただき、ウォーミングアップをしましょう。」
	2分	2 話し合いの視点や進め方、付箋紙の使い方、時間配分等について確認しましょう。 ・ 話し合いの目的を常に意識します。 ※ 小黒板などに、進め方や時間配分等を書いて、掲示すると意識を高められます。	「本日は、〇〇に示してありますように、〇〇の順に進めます。最終的には、改善策を焦点化し、その改善策の具体的な取組の共有化を図り、終わります。」
		3 授業者に授業の意図を話してもらいましょう。	「授業者が言われた〇〇とは、〇〇ということですよ。」
話し合いの促進 ↑ 意見の集約 ↓ 時間管理 ↓ よさの明確化 ↓ 改善策の焦点化	20分	4 メンバー全員が付箋を貼り、多様な意見を交流できるようにしましょう。 ・ 各自の発表時間を設定したり、同じ意見は省くなど、効率的な発表になるように促します。 ※ ワークシート等を同じ方向から見たり、黒板に掲示したりするなど、話し合いの形態を工夫するだけでも活発になります。	「一人1分で付箋を貼りながら、成果について発表してください。同じ意見については省き、補足や異なる意見などを発表していきましょう。」 (同様に、課題→改善策についても行う。)
	10分	5 付箋のまとまりに小見出しを付けながら、様々な意見を集約してもらいます。 ※ 課題や改善策については、時間を確保したり、場合によっては、ファシリテーターが働き掛けたりして、話し合いを活性化します。	「出された意見（付箋のまとまり）をグルーピングして、小見出しを付けましょう。」 (同様に、課題→改善策についても行う。)
		6 話し合った結果を、グループごとに発表してもらいます。 ・ 明確になったよさは、日常の授業に取り入れていくようにしましょう。	「掲示したワークシートを示しながら、各グループ〇分以内で発表してください。」 「成果として出され〇〇については、学級の実態に応じてアレンジしましょう。」
	改善策の焦点化	7 出された改善策を実践につなげるために焦点化しましょう。 ※ 出された改善策について、短冊やワークシート等に掲示し、可視化することで、話し合いが焦点化されます。	「これらの改善策で共通した〇〇について、焦点化して話し合います。」 (共通した改善策が出てこなかった場合は、「これらの改善策で、本校で今一番必要と思われるものは何ですか。」「これらの改善策で、今すぐに取り組めるものは何ですか。」などの焦点化する視点を提示する。)
5分		8 焦点化された改善策について、今後の授業改善に生かすために具体化していきましょう。 ・ 「これならできそうだな」という視点で、再度話し合ってもらうことにより、今後の実践の具体化を図ります。 ・ 具体化した改善策については、メンバー全員の合意を得て、共通理解を図ります。	「焦点化した改善策の〇〇について、これならできそうだな、といった具体的な改善策について再度、各グループで話し合ってみてください。」 「〇〇ならできそうですね。〇〇をやっていくということではいいですか。やってみながら改善していきましょう。」
改善策の具体化と共通理解	5分	9 外部講師や管理職からの指導助言を受けます。	

授業研究の更なる活性化を図り、子供たちの学力向上を目指しましょう！

平成 27 年度からのプロジェクト研究では、これまでの研究成果を生かし、次のような授業づくりの視点を盛り込んで、授業研究実践校に対する内容面からの授業研究の支援を、継続的・実証的に行います（授業研究サポート事業Ⅱ）。

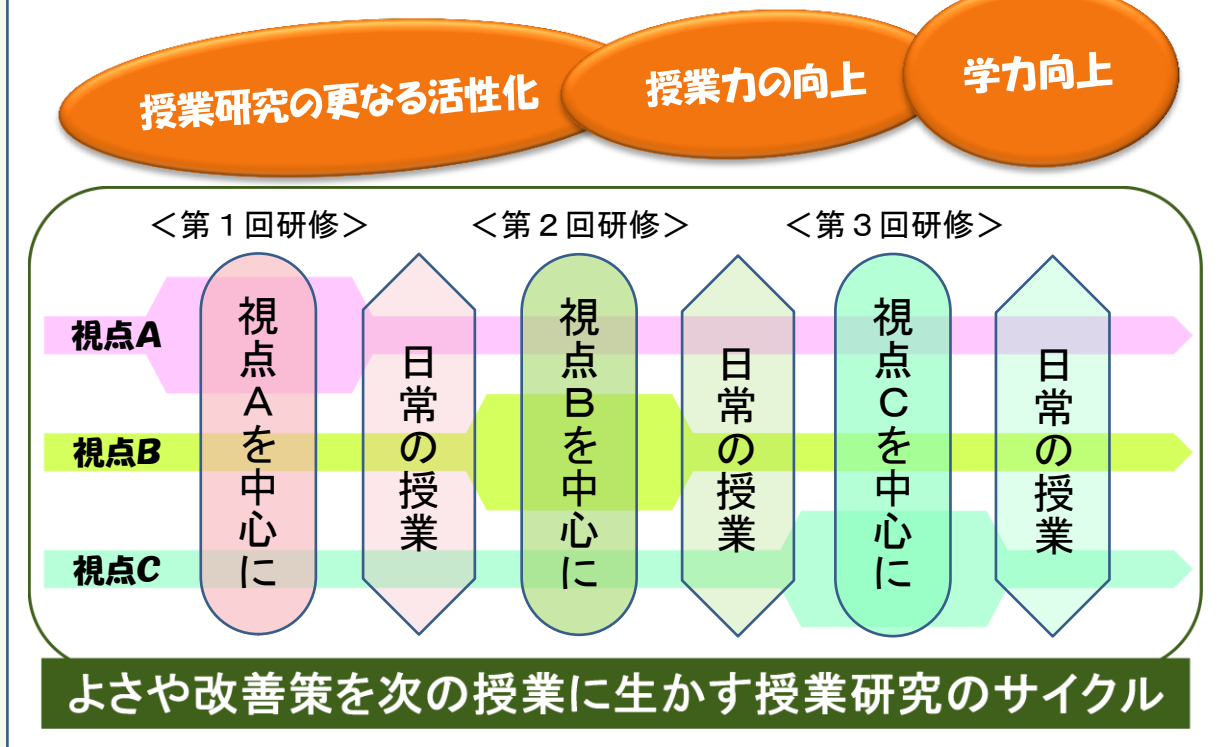
【授業づくりのための視点】

- ・ 視点 A 生徒指導に関する視点
- ・ 視点 B 特別支援教育に関する視点
- ・ 視点 C ICTの活用に関する視点
- ・ 視点 D 「判断基準」に基づく授業づくりに関する視点
- ・ 視点 E その他、学校のニーズに応じた視点

本研究では、各学校が実施する年 2、3 回の研究授業を伴った校内研修に対して支援を行います。例えば、図のように、1 回目は授業づくりの視点 A を中心に、2 回目は視点 B を中心に、3 回目は視点 C を中心に、授業研究の支援を行います。授業検討会で出されたよさや改善策を日常の授業に生かして、実践することで、授業研究の更なる活性化と授業力の向上を図り、子供たちの学力向上を目指します。

各学校においても、このような考えに基づく授業研究に是非取り組んでいただければと思います。

【年間を通した授業研究のイメージ図(例)】



研究成果については、平成 22・23 年度は、模擬授業やワークショップ型授業検討会の様子を収めたCDとパンフレットを作成し、県内各学校へ配布しました。パンフレットは、Web サイトにも掲載しています。平成 24～26 年度は、ファシリテーターの進め方について、授業研究実践校の映像を用いた、具体的な場面のCDを作成しています。このパンフレットと併せて御活用ください。